

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
7	川崎市立さくら小学校	治田 直美

学校教育目標	今年度の重点目標
さくらっ子の笑顔はNO.1 ～ちがいを生かし、共に育つ子の育成～ 【徳】心やさしい子 【知】進んで勉強する子 【体】明るく元気な子	○豊かな情操と感性の育成 ○よく見、よく聞き、よく考え、進んで学ぶ子の育成 ○健康を育み、安全に生活する子の育成

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 人権尊重教育	「ひと」「もの」「こと」とのかかわりを大切に、様々な違いを認め合い他者を尊重する姿勢を育む心の教育を充実させていく。人権尊重教育実践推進校として、教職員の研修を進め、授業公開を行う。	毎月の児童へのアンケートを通して、いじめの早期発見・解決や児童の不安へ早期対応に努めた。職員研修の実施とともに、人権感覚チェックシートを作成・活用し、職員の人権意識の共有と向上を図った。人権尊重教育実践推進校として、全学年で授業公開を行い、本校の日常的な取組を紹介することができた。	引き続き、児童へのアンケートや日常の観察からいじめの早期発見・解決に努め、互いに認め合い他者を尊重する学校風土を醸成していく。教職員の人権感覚チェックシートを継続し、常に人権意識の向上を図り、日常的な人権尊重教育の実践を推進していく。
2 児童指導・児童理解	子ども一人ひとりの状況を把握するため、教職員間の情報交換を密に行うとともに、家庭との速やかな連携を図り、早期対応に努める。児童や保護者の思いに寄り添いながら協力して指導に当たる。支援教育COを中心にサポート体制を充実させていく。	児童・保護者の思いや願いを真摯に受け止め、学校として一貫した児童指導・保護者対応ができるように職員間で共通理解を図った。トラブルや事故に対しては丁寧な事実確認の上、保護者への速やかな連絡を行い誠実な対応に努めた。	支援教育COを中心に、職員間での情報共有がさらに確実にできる体制を整え、共通認識をもって全職員で協力して指導に当たっていく。児童の状況を的確に把握し、家庭との連携を図る。さくらっ子の約束の定期的な見直しを行い、児童・教職員・保護者への周知・徹底に努める。
3 特別支援教育	特別な支援を必要とする児童一人ひとりの教育的ニーズに合わせて、きめ細やかな指導を進める。個を大切にされた指導の充実にも努めるとともに、個別に指導・支援が必要な児童を教職員全体で支えていく。	支援教育COが中心となって、特別な支援を必要とする児童の掘り起こしと、指導・支援についての相談とその充実を進めた。教職員間で情報共有を行い、同じ認識をもって支援が行えるように努めた。必要に応じて教育サポーターや級外教員などによる支援を行い、一人一人の教育的ニーズへの対応ができるように努めた。	特別な支援を必要とする児童は増える傾向にある。職員会議前に行っている児童の情報共有の時間をさらに充実させ、全教職員で児童の支援に当たる。個別サポートシートの活用と確実な引継ぎを行い、必要に応じてケース会議を開いて、一人ひとりに必要な細やかな指導・支援を継続していく。支援教育COを要に、教職員、各サポーター、また関係諸機関との協働・連携を図る。
4 学習指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得のための授業時数を確保し、教材や学習活動の工夫を行って思考力や判断力の向上を図っていく。図画工作科の校内研究を通して、児童の表現する力の育成に努めるとともに、研修や教材研究、研究授業を通して教員の授業力向上を図る。	帯学習の時間を活用して基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、子どもたちが自ら考え意欲をもって学べるような授業を目指して教材研究を行った。校内研究の成果として、図画工作科で作品に思いを表現する力が高まり、教員の指導の引き出しも増えた。ただ、依然言葉での表現力は乏しいため、今後言語活動に力を入れる必要がある。	次年度の校内研究では言葉で思いを伝える力を育むための教材研究や授業の工夫を考えていきたい。また個別最適かつ主体的対話的で深い学びの実現に向けて、GIGA端末の活用をさらに促進し、授業改善を図っていく。また、そのための教材研究や情報交換を進め、教員の意識改革と授業力向上に努めていく。
5 防災・安全指導	防災訓練の実施、防災教育の推進等により、児童の防災意識を高める。校舎内外の環境整備に努め、安心・安全で気持ちのよい学習環境を作る。	訓練のための訓練にならないように想定や訓練の流れを見直し、教員も子どもも実際の状況を想定した上で安全確保ができるように避難訓練を実施し、児童も真剣に取り組んでいた。	引き続き防災教育を充実させ、児童・教職員共に防災意識を高めていくとともに、実際の被災時に落ち着いて混乱なく避難・安全確保ができるように、避難訓練・防災学習を重ねていく。

6	地域連携	地域の教育力を生かした体験的な学習を進める。学校運営協議会の開催、学校公開日の設定、学校施設の有効活用等を通して、地域に開かれた学校づくりを進める。	ふれあい館や地域教育会議を通して地域人材を活用した体験的な学習を進めることができた。運動会や学校公開日などで、学校運営協議会委員をはじめ、地域の方々にも学校を知ってもらう機会をもつことができた。	地域とのつながりを大切にしながら学習を進められるように、保護者をはじめ地域の方々との連携・協力を図る。講師の方々や学習のねらい等をしっかりと共有し、学習の効果をさらに高めていきたい。
7	情報公開	学校だより・学年だより、保健・給食だより等の発行、学校ホームページの活用等により、地域や保護者への情報発信を進める。	学校だよりと学年だよりを一体化させ、より簡潔に必要な情報が家庭や地域に届くよう形式を変更した。また様々な母国語をもつ保護者へむけて、重要な手紙や配信メールには、やさしい日本語とそれをローマ字表記した文面を併記するよう配慮した。	保護者や地域の方々の理解を図りながら情報提供を充実させていく。オンライン化も進める一方で、保護者会や学校説明会などの参加率を上げる工夫や学校の教育活動への関心を高めていく工夫を進めていく。
8	国際教室	国際教室担当と、学級担任、日本語支援員との間で情報共有をしながら、個々の児童のペースに合わせて学習を進めていく。	児童の個々の状態に合わせた指導計画を立て、日本語の獲得や各学年の学習内容の補習、さらに日本の文化について学ぶ機会を設けて、一人ひとりの意欲を高めながら学習を進めていた。国際教室での学習の様子を職員研修や各クラスで担当から紹介し、国際教室や所属する児童への理解を深める取組も行った。年度途中の編入児童が多く、日本語がほとんど分からない状態からスタートする子どもも多かったため、工夫して学習を進めても限られた人員と時間の中での指導が難しかった。	次年度も、所属する児童の増加が予想される中ではあるが、できるだけ丁寧に個に応じた指導ができる体制を整えたい。担当教諭と、担任、日本語支援員との情報共有を密に行い、国際教室での指導を工夫して進めていくとともに各教室での支援も強化していく。また職員の研修も行い、学校全体での児童理解を深め、有効な指導・支援の仕方について考えていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの回答率が低かった。もっと学校への関心を持ってほしい。</li> <li>登下校の様子など、さくらっ子の約束が低学年に浸透していないように思う。高学年が手本となって教えるなどして、自分で判断できる力をつけてほしい。</li> <li>保護者の自由記述は学校へのポジティブな意見が多く、学校への信頼が表れている。</li> <li>児童アンケートに「先生や友だちがやさしい」と書くのは力強いアクションであり、子どもたちが学校に守られていると感じる。</li> <li>多様性を受け入れる人権尊重教育の取組は評価できる。地域も協力していきたい。</li> </ul>	<p>人権尊重教育をベースにした、多様性を認め合い共に育つ子の育成に向けて、児童や保護者の思いに寄り添った丁寧な対応、個に応じたきめ細かな指導・支援を続けてきた。学校全体で児童を見守り育てていく意識は定着してきているが、来年度はさらに確実で速やかな情報共有のための体制を整えていきたい。特別な支援を必要とする児童や国際教室の児童は増加傾向にあり、取り出しや入り込みの支援など個別の対応を充実するために、人員の確保や支援体制の見直し、さらなる授業改善が必要となる。3年間の図画工作科の研究を通して、自分の思いを大切にしながら主体的に作品づくりに取り組み表現しようとする力は育ってきた。今後は他教科でも主体的に学習に取り組み、自分の思いを表現する力をつけていくために言語活動を充実させていく。</p>